

ぎふ女性農業委員 ・推進委員だより

◆編集・発行 ぎふ農業委員会女性ネットワーク
会長 高田 禮子

＜事務局＞一般社団法人岐阜県農業会議
〒500-8384 岐阜市藪田南5-14-12
TEL:058-268-2527 FAX:058-273-6177
E-mail:gifu@nca.or.jp

令和2年3月18日
第10号

令和元年4月1日の山県市農業委員会の委員改選を皮切りに、これまでに7農業委員会での新体制移行後2期目がスタートしました。

7委員会の女性委員数は、農業委員24名から20名に、推進委員3名から5名に、概ね改選前を維持する結果になりました。いずれの委員会も複数名の女性委員を登用しており、恵那市では農業委員19名のうち女性が6名(+1)となり、県内で初めて農業委員に占める女性の割合が30%超となりました。令和2年7月には、残る35委員会が委員改選を迎え、1月から順次、委員公募が始まっています。本ネットワークから女性の推薦や要請を行い、女性登用がより進むよう活動していきます。

7農委 改選完了 35農委 令和2年7月改選へ

県内の農業委員会の改選状

農業委員会	任期満了日	改選による女性委員数の増減	
		農業委員	推進委員
①山県市	平成31. 3. 31	3 → 2	2 → 2
②各務原市	平成31. 4. 26	2 → 2	0 → 0
③瑞穂市	平成31. 4. 30	4 → 4	0 → 0
④飛騨市	令和1. 6. 30	5 → 3	0 → 2
⑤下呂市	令和1. 9. 30	2 → 2	0 → 0
⑥恵那市	令和1. 11. 13	5 → 6	0 → 0
⑦郡上市	令和2. 2. 28	3 → 1	1 → 1
⑧～④⑩統一改選 ④①笠松町 ④②土岐市	令和2. 7. 19 令和2. 7. 31	58 → ?	7 → ?

県女性農業経営アドバイザー いきいきネットワーク研 修会で高田禮子会長講演

平成31年4月18日にJAGぎふ北方支店で開催された岐阜県女性農業経営アドバイザーいきいきネットワーク研修会に約100名が参加し、本巣市農業委員の高田禮子さんが講師として「高田農園の働き方改善」と題して講演しました。同月から施行された国の働き方改革を受けて企画されたもので、高田会長から家族経営協定で話し合い、意見を共有し、我が家の働き方のルールを些細なことから決めていった事例を報告しました。

また、女性農業経営アドバイザーに、農業委員・推進委員に積極的にチャレンジして欲しいと呼びかけました。研修会では、女性農業経営アドバイザーによるブログ活動発表や、荒井妙恵子社労士の働き方改革に関する講演も行われました。

恵那市農業委員会 女性委員の登用要請を実施

令和元年6月14日に岐阜市のホテルパークで開催された県農業会議総会後に、ぎふ農業委員会女性ネットワークの高田禮子会長から恵那市農業委員会の夏日廣美会長に女性委員の登用要請を行いました。要請には5月に改選し引き続き女性委員4名を登用した瑞穂市農業委員会の高田里美会長も同席。恵那市農業委員会は既に県下で最多の5名の女性委員がいますが、11月の改選後も引き続き5名以上の登用をお願いしました。



恵那市農業委員会の夏日会長(当時)に要請する高田禮子会長

ぎふ農業委員会女性ネット ワーク総会 研修会の開催

令和元年10月21日に各務原市のテクノプラザで、ぎふ農業委員会女性ネットワークの総会、研修会を開催し、会員である女性委員48名、農業委員会事務局や東海農政局、県農村振興課など73名が参加しました。

総会では、30年度事業報告と決算、令和元年度事業計画と予算、改選する農業委員会への女性委員登用の要請などを決定し、会員に次期の委員継続と地域で早期にその旨を表明することをお願いしました。

研修会では愛知県大口町の服部農園(有) 服部都史子さんから「大口町の米農家服部農園(有)」地域に愛される会社へ」と題して、これまでの歩み、経営概要、経営理念、特に社員教育について、お話しいただきました。同社は、役員3名社員10名で、水稲95畝、二毛作の大麦47畝を生産されて

います。経営方針は社員が主役の会社づくり。これに至ったのは、平成26年の1俵約9千円となった米価下落がきっかけでした。同社は、同年産の米は品質も収量も例年と比べ良かったにもかかわらず赤字になり、来期同じ状況になれば倒産の危機だったそうです。藁にもすがる思いで強い農業経営をテーマにした経営コンサルタンの先生のセミナーに参加。経営の勉強を始め、教えてもらうことは全て実行したとのこと。特に繰り返し行ったことがマネジメントゲーム研修で、自身が製造業の社長となり5期経営を行うものです。ゲームを通し、利益を出すには計画、逆算をした意思決定が必要であること、コスト削減より社員の生産能力のアップが重要であることを学び、社員教育に時間も費用もかけていくようになったとのこと。今では、同社主催でマネジメントゲーム研修を行い、社員のみならず他の農業経営者や異業種の方も多数参加されています。

令和2年3月18日 (第10号)



社員教育を語る服部農園(有)の
服部都史子さん(左)

他にも、学校のトイレ掃除などを研修として実施。仕事の段取り、仕上がり、掃除を通し学び、実際に効率があがり年間休日の増加、5〜6月でも月に6日は休みがとれるように変わったとのこと。業績も増収増益に繋がっており、この経営改善の取組みが評価され、平成30年度全国優良経営体表彰の経営改善部門で農林水産大臣賞、グッドキャリア企業アワード2019イノベーション賞を見事受賞。社員がいきいきと働き、地域に愛され、必要とされる農業経営について勉強させていただきました。

東海 近畿ブロック女性の農業委員会研修会 in 京都 参加

令和元年11月28日に京都市のメルパルク京都で開催された標記研修会に168名が参加し、岐阜県から女性委員19名、農業会議1名が参加しました。

きようと女性農業委員・推進委員の会の山下会長、(一社)京都府農業会議の小田副会長から開会のあいさつの後、17のグループごとに交流をしながら研修しました。

研修では、全国農業会議所の佐藤雄太主事から「農地利用最適化の推進と女性委員の役割について」の報告があり、人・農地プランの実質化を目指すにあたり、①農地所有者の意向把握②集落での話し合いに出席することが求められるが、いずれも新しいことではなくこれまで委員活動でやってきたことと説明がありました。特に、地域の話し合いが前向きに進むよ

う現場の状況報告や話題提供などが期待されているとのこと。そのためにも全国農業新聞に掲載される優良事例の記事を活用しましょうとの説明がありました。

続いて、いがた女性農業委員の会の笠原尚美会長が「女性の力で進めよう！人・農地プラン」と題し講演されました。笠原さんは33才という若さで阿賀野市の農業委員に就任され、現在19年目とのことです。阿賀野市農業委員会では毎年、30戸以上を耕作する農家約2,500戸を対象に経営状況調査をされ、①現状②今後の経営見込み③後継者の有無を聞き地図に落とし込んでいくとのこと。笠原さんは担当地区で意向をもとに貸借のあっせんを行い、実績が多数あがっています。自ら地域の担い手に順にあたり、何名にも粘り強く丁寧に話をし、貸借成立や売買もまとめてみえます。ポイントには本音を聞き出すこと、夫婦や親子一緒に話を聞いてもらうことだそうです。



グループごとに研修をうける参加者

その後、グループごとに「あなたの孫の世代に地域の農業がどうなっていたら良いか、そのために何が出来るか」をテーマにワークショップを行いました。県域をこえて地元の状況や自身の活動を報告しあい、活発な話し合いができました。

令和2年度は岐阜県で開催し、他県の女性委員をお迎えします。

**京都府宮津市
由良オリーブを育てる会
天橋立ワインを視察**

東海・近畿ブロック女性の農業委員会研修会の開催に合わせ、翌日11月29日に、京都府宮津市の由良オリーブを育てる会と天橋立ワインで視察研修を行いました。由良オリーブを育てる会では、耕作放棄地が増加する中、2013年から畑を再生しオリーブを市の特産品にしようと、みかん農家である藤本代表を中心に栽培を開始。



由良地区のオリーブ畑

今では約3畝にイタリア品種を中心に30品種2,000本のオリーブを栽培されています。収穫したオリーブは、自家搾りのオリーブオイルや新漬け、オリーブ茶に加工し販売されています。1本の樹から優秀なもので果実10kgが収穫でき、それを搾油すると約1畝のオイルになるそうです。大変貴重なオイルをわけていただきましたが、フレッシュなオイルは市販のものとは比較にならない香り高さでした。若い農家やシェフも生産、販売に参画し、毎年10月にはオリーブ祭を開催するなど、盛り上がりを見せ、耕作放棄地活用の参考になりました。



宮津由良 100% オリーブオイル

天橋立ワインはブドウ生産、ワイン醸造、販売、農家レストランを経営する農業法人で、現在自社で3畝、協力農家による契約栽培3畝を20年前から生産されています。ワインにはテロワールという土壌や気候まで含めた全てが味に影響するとされ、畑1枚1枚がとても大切に考えられています。天橋立ワインでも土づくり、畑からワインづくりをされています。



醸造所でワインづくりの説明をお聞きしました

併設する農家レストランの「ぶどう畑のレストラン」では地域の農畜産物がふんだんに使われ、米粉、パンや米粉カレー、地野菜のサラダ、ワインを使った鶏の唐揚げ、自家製白ワインケーキなどのメニューがバイキングで楽しめ、平日でも大勢のお客様で賑わっていました。



ぶどう畑のレストランでのランチバイキング

令和2年3月18日(第10号)

女性農業委員登用促進研修会 参加

令和2年1月8～9日に東京都の主婦会館で開催された標記研修会に149名が参加し、岐阜県からぎふ農業委員会女性ネットワークの高田会長、國島副会長、佐伯副会長、熊崎副会長と事務局が参加しました。

全国農業委員会女性協議会の横田会長は「3つの目標を持っている。1つ目はいかに女性委員を増やすか。2つ目はいかに農業者と近くで話す活動をするか。3つ目は子どもたちやお母さんへ食育などの発信の強化」とあいさつされました。

研修会では、農業ジャーナリストの榎田みどりさんが「女性農業委員が増えれば農業委員会が変わる！」と題して講演。女性委員は生活者目線になれるので、年金、家族経営協定、食育、広報編集などで能力発揮を期待する。特に、これからの農村づくりに必要な非

農家へのアプローチに期待。例えば伊東市は、農業委員会だよりをカラフルな写真中心の雑誌のように刷新し、食材やレシピ、レストランや観光などとセットで農業をPRし、農業を始めてみたいという市民から問い合わせが来るなど好評を得ている事例などを紹介されました。

つづいて、全国農業委員会女性協議会の横田友会長、滋賀県湖国女性農業・推進委員協議会の池田喜久子会長、鳥取市農業委員会の濱田香会長をパネラーに「農村における女性登用の促進について」をテーマにパネルディスカッションが行われました。滋賀県の池田喜久子さんは、女性委員登用キヤラバンとして県農業会議会長と事務局長、県とで17市町の全ての首長へお願いにあがったと報告されました。お願いにいくと、ほとんどの首長は賛成であるが、候補者がおらず逆に相談を受けることも多かったとのこと。鳥取市農業委員会の濱田香さんからは、

同市は会長と職務代理が女性で、委員で不定期で座談会を行い本音で話して、他の委員に助けて貰いながら前向きな委員会運営ができているとお話しされました。

翌日は、グループに分かれ全国農業会議所の進行のもと「わがまの女性の農業委員、推進委員を増やすアイデアを出しあおう！」をテーマに協議、発表が行われました。委員公募にあわせて、仕事内容が見える女性募集のポップなポスターをつくる、女性委員経験者でOG会をつくり若い方の推薦とサポートをする、などのアイデアが出されました。

第10回全国農業委員会女性協議会総会 参加

令和2年1月9日、東京都の主婦会館において、女性農業委員登用促進研修会に引き続き標記総会が開催され、各県の女性農業委員組織の代表などが参加しました。

本県からは、ぎふ農業委員会女性ネットワークの高田会長、副会長3名と事務局が引き続き参加しました。

総会では「令和元年度の活動報告の承認と収支決算」「令和2年度活動計画の策定と収支予算」、「会費の賦課について」が原案どおり決定されました。事業計画では、令和2年10月頃に3年に一度の女性委員初任者研修の開催(新)、新たに開設した協議会HPに研修資料や活動を掲載し事例の発信を行うとのこと。また、3年に一度の統一改選の今年、女性登用を確実にすすめるため申し合わせ決議(以下)を採択しました。

申し合わせ決議

- 一 女性農業委員・推進委員の具体的な登用目標を決めよう
- 二 女性の農業委員・推進委員の登用に向けて、関係機関等へ積極的に働きかけよう

三 農業委員会の女性組織として積極的な推薦を実施しよう
 四 次代の農業委員・推進委員の掘り起こしに取り組みよう

農業委員会 女性委員農年推進セミナーで 恵那市の梅本信枝さんが事例報告

令和2年1月9日、東京都の主婦会館において標記セミナーが開催され、女性委員など約40名が参加しました。本県からは、委員5名、農委事務局1名が参加しました。

恵那市の農業委員で農業者年金加入推進部長の梅本信枝さんが自身の取り組みを発表しました。梅本さんはiDecoの加入を検討されていましたが、農業委員になって参加した研修会で農業者年金の有利性を感じ加入。その時「もっと若い時から入ってれば」と感じた思いから、自身の夏秋トマト経営の研修生やそこから独立し



年金加入推進を報告する梅本信枝さん(右)

た就農者を中心に加入をすすめてみえます。梅本さんや他の委員の活動で、恵那市は平成30年度に目標1名に対し6名加入達成により表彰も受けられました。
 事例報告につづいて、特定社会保険労務士の福島邦子さんの進行のもと、梅本さんから3名の事例報告者でパネルディスカッションが行われました。

「農業者年金」は女性農業者の豊かな老後を支えます

人生100年時代を迎え、老後に備える年金の重要性が高まっています。農業者年金は長生きする女性にこそお勧めしたい農業者のための上乗せ年金です。女性に制度を知知するには女性委員の働きかけが重要です。そこで、積極的に加入推進に取り組み女性農業委員3人と特定社会保険労務士の福島邦子さんを招き、女性委員に向けた「農業委員会・女性委員農年推進セミナー」(主催：全国農業会議所)が開催されました。今回、セミナーの様子をレポートします。

農業委員・推進委員の皆さんで安心の輪を広めましょう



大きな税制優遇が農年の決め手

私は40代の頃、国民年金だけでは老後が不安になり、国民年金に加入。それが社会保険料控除の対象の後払い型確定拠出年金(iDeco)の加入を検討。2017年に加入しました。

「繋がる力」が加入推進の力

恵那市農業委員会には、おっしゃっています。一先発表5人の加入推進部長がお話し、農業者年金の良いところを多くの人に伝えていく体制をとっています。15年度以降、毎年新規加入者を2人以上確保し、18年度には6人が新規加入。これにより、全国で目標達成度合い第1位を獲得しました。

加入推進にあたっては女性の繋がる力が一番大切な日頃から研修生に対して農業者年金の重要性を説明している。梅本信枝さん



梅本 信枝さん
 ●岐阜県恵那市農業委員
 ●農業者年金加入推進部長
 夫と2人で夏秋トマト、菌床シタケを生産

加入推進に取り組む農業委員と推進委員へメッセージ



梅本さん

農業者年金は「知ってもらうこと」が一番大事です。皆さんで農業者年金の良いところを発信していきましょう。



谷口さん

政策支援加入の条件にもなる家族経営協定を併せて推進することが重要です。協定は家族が日頃の思いを話し合うきっかけになりますし、農業者年金にも加入しやすくなると思います。



清心さん

「なぜ教えてくれなかったの」と言われないように、農業者年金は良い制度だと自信を持って戸別訪問を頑張りましょう。

令和2年3月18日(第10号)

農業会議常設審議委員会 農政懇談において女性委員 登用を要請

令和2年1月15日に岐阜市のJ A会館で開催された農業会議の常設審議委員会に38名が出席し、農政懇談において「農業委員・農地利用最適化推進委員への女性登用について」をテーマに研修を行いました。

研修会では、まずはじめに農業会議から県内における女性登用の状況として、農業委員656人のうち女性80人(12.2%)、推進委員460人のうち女性12人(2.6%)であることを報告。改正農業委員会法により委員の年齢、性別等に著しい偏りが生じないように配慮しなければならぬこと、第4次男女共同参画基本計画において農業委員に占める女性の割合は令和2年度までに30%を目指すことから、更なる登用が必要であると説明がありました。つづいて、令和元年11月14

日に委員改選迎えた恵那市農業委員会の柘植賢二会長、梅本信枝委員、西尾ひろみ委員、曾我佳奈子委員、安藤哲也副局長より、農業委員19名のうち女性6名(31.6%)となった取り組みについて報告いただきました。従前も女性委員が5名みえましたが、農地法許可業務や農地利用最適化推進業務に加え、農業委員会だより「ええのお」の編集や農業者年金の加入推進を女性委員が担い活躍していることから、推薦応募が集まり6名に至ったとのこと。総会前に、5地区に分かれて行う地区委員会では女性委員が委員長を務める地区もあり、委員会全体の活性化に大きく寄与されてみえます。

恵那市の事例を参加者で共有した後、ぎふ農業委員会女性ネットワークの高田禮子会長より、出席されていた9市町の農業委員長に女性委員登用の要請書を手渡し、意見交換を行いました。農業委員会会長からは「当市は今日より委員募集を開始した。いただいた要請書のとおり女性登用を目指していきたい」「食農教育も女性委員がみえることより一層すすむ」などの言葉をいただきました。



要請書を渡すぎふ農業委員会女性ネットワークの高田会長、瑞穂市農委の高田会長、恵那市農委の3名

ぎふ農業男女共同参画推進会議 参加

令和2年1月16日に岐阜市の農業技術センターで開催された標記会議に27名が参加し、ぎふ農

業委員会女性ネットワークの高田会長、事務局が出席しました。会議では、平成28年3月に策定した第3次ぎふ農業・農村男女共同参画プランの取り組み状況について説明され、農業委員に占める女性の割合目標(8.5%)は達成しています。家族経営協定締結数は県内603であり横ばいであるため、農業者年金の加入推進とあわせて協定も進めていきたいと思えます。説明の後、参加した指導農業士会、女性農業経営アドバイザーいきいきネットワーク、アグリエンジョイネットや市町村などと意見交換を行いました。

また、会議に引き続き、みんなが活躍する農業・農村フォーラムが開催され、東海農政局生産技術環境課より「スマート農業にかかるとる全国の動き」について情報提供、N T Tドコモ法人ビジネス本部の川野さんより「N T Tドコモ・アグリガールの農業へのチャレンジ」の講演がありました。

農業委員・農地利用最適化推進委員用ポータルサイト OPEN

CONTENTS



農業委員会制度

農業委員会の役割について
農業委員、推進委員の役割について



活動事例

全国の農業委員会の取組事例

★大垣市農業委員会の事例 掲載中



Q&A

よくある質問



様式集

委員の活動に使える
各種様式・テンプレート



関連資料集

農地利用の最適化に関する各種資料



映像ライブラリー

各種大会などの動画リンク

★農地意向調査のロールプレイ動画など配信



女性委員の活動

全国農業委員会女性協議会の活動
女性委員の取組事例

令和2年3月4日 農林水産省経営局就農・女性課と農地政策課に訪問しました！



全国農業委員会女性協議会役員から「令和元年度全国農業委員会女性協議会アピール」をお渡しされました



URL <https://www.nca.or.jp/iin/>

＼ こちらのQRコードからアクセス ＼



購読のお申し込みをお待ちしております

全国農業新聞は農業者の公的代表機関である
農業委員会組織が発行する農業総合専門紙です。
「週刊」の時間を生かし、情報がわかりやすいよう
解説的にまとめています。

毎週金曜日発行 月700円/年8,400円
お申込みはお近くの農業委員会まで



＜編集後記＞

本年度は委員改選
に向けた女性登用
活動が中心でした。
新委員になる方も
含め、4月からは市
町村をこえて繋が
りがもてる集まり
を企画していきます。
(M)

編集
発行

ぎふ農業委員会女性ネットワーク 岐阜市藪田南 5-14-12 県シンクタンク庁舎 2 階
事務局：一般社団法人岐阜県農業会議
TEL:058-268-2527 FAX:058-273-6177 E-mail:gifu@nca.or.jp URL:http://www.gifu-agri.jp